

CONTENTS

銀座ライトナイト・ヴィジョン2020	2
J Pタワー	10
ダイビル本館	14
ワテラス	18
阿倍野歩道橋	22
ブラダ 銀座店/ブラダ 大阪心斎橋店/ブラダ 名古屋店	24
南海なんば第一ビル/Zepp Namba OSAKA	26
舞鶴公園	28
大橋駅西口再開発事業	29
なばなの里 ウィンターイルミネーション「冬華の競演」2013	30
富山県 富岩運河環水公園	34
瀬戸内国際芸術祭2013小沢敦志「舟底の記憶」	36
市原湖畔美術館	38
アーツ前橋	42
ガーデンテラス東山	46
ambio（ヒルトン東京ベイ）	50
富士ビジネス株式会社	52
名古屋市立大学薬学部 講義・図書棟	54
プラウド船橋Ⅲ街区/V街区	56
YAMAGIWA名古屋ショールーム	58

銀座ライトナイト・ヴィジョン2020

変わる銀座。変わらない銀座。ともあれこの街は光によってつくられている。

高級ブランドや老舗が建ちならぶ、国際的な繁華街である銀座。この街の魅力は、こうした華やかな部分だけではない。建物と建物の間には、あまりその存在を知られていない幅1mほどの古くからある路地が残っている。表通りと比べて薄暗いこの通りが、何故か人々をひきつけるのだ。銀座に事務所を構え、表通りだけでなく、こうした路地の魅力もよく知る照明デザイナーの東海林弘靖さんと5人の識者と共に、銀座の変わる部分、変わらない部分を求め夜の街を探索した。



ティファニー銀座本店と英国屋銀座二丁目店の間にある幅1メートルほどの路地。かつてここにあったカフェが、永井荷風の小説の舞台になったとされている。この細い路地の先にあるのが銀座の中央通り。

江戸の古地図と変わらぬ銀座の区画

1874年、東京で最初のカス灯が灯った銀座中央通り。ロウソクよりほんの少し明るい程度の照度しかなかったものの、物珍しさもあって多くの人々が集まった。その後の銀座が、日本を代表する繁華街として発展したのはご存知の通り。日本各地に「〇〇銀座」と呼ばれる商店街が300は存在すると言われるほどだ。現在も高級ブランドや老舗が店を連ね、東アジアを代表する繁華街として、海外から多くの旅行者も訪れている。

そんな銀座に事務所を構えて14年になる照明デザイナーの東海林弘靖さんは、「銀座の面白さはこうした表通りだけではない」と話す。大正・昭和の名残がいまだに存在し、独自の魅力があるというのだ。しかも銀座は7年先のオリンピックの選手村（月島）と目と鼻の先。7年前といえば、「イナバウアー」が流行語になったトリノオリンピックの年だ。2020年は、あっという間にやってくるだろう。では、これから銀座はどうなるのか。東海林さんの案内で夕方の銀座を周り、考察することにした。このツアーにご同行願ったのは、それぞれ異なる分野で活躍する5名の論客。インダストリアルデザイナーの山田晃三さん、建築家の亀井忠夫さん、ランドスケープデザイナーの団塚栄喜さん、東京理科大の准教授で建築素材の研究をする兼松学さん、そして作曲家のヲノサトルさんだ。それぞれの専門分野の視点から、銀座を語ってもらう訳である。5名の識者には、銀座を観察するに相応しい普段使っているプロの道具も合わせて持参願った。

GKデザインの山田さんは、同事務所が手掛けたキッコーマンの醤油瓶のテンプレートを持ってきた。「日本の食文化の象徴であるこの形で、銀座の景色を切り取ってみたい」と抱負を語る。亀井さんは「時代の先を見る」ということで双眼鏡を。団塚さんは「建築はその土地の歴史を継承するようにつくることが望まれる」ということで、1861年の銀座の古地図を。コンクリートの研究が専門の兼松さんは、建築素材を叩いた音で調べる打診棒。そして騒音計とレコーダーがヲノさんの道具だ。

今回6人が歩いたのは、銀座の東端、銀座一丁目にある東海林さんの事務所から西に向かって八丁目まで行き、また戻ってくるコース。かつて銀座は海で、江戸時代になって埋め立てが行われ、碁盤の目のように区画整理された街だ。「平安京のモジュールが使われている。だから歩きやすい」と団塚さんが説明する通り、一丁目の長さは京都の10間に相当する。「古地図に今の銀座を重ねてみると、ほとんど変わらない」そうだ。

探偵事務所のようなオフィスのある街

銀座に東海林さんが事務所を構えたのは2000年の事。個性的でちょっと怪しい探偵事務所のような物件を探していたところ、たまたま昭和初期の1933年に建てられた奥野ビルに出会ったという。7階建てで、当時は珍しかったエレベーターがあっただけでなく、各戸に電話を備えた極めて進んだ建物には、詩人の西條八十など多くの文化人が住んでいた。東海林さん一行が最初に向かったのは、このレトロな建物。手で開閉する扉が付いたエレベーターはいまだに現役で、「このエレベーターにやられた」と東海林さんは語る。他にも木製の階段の手すりや、壁に貼られたタイルなど、細部にまで気が配られていることが伺える。建材を研究する兼松さんは、「いいタイルですよ。でもこういう古い仕事のタイルは、壊れたらなかなか直すのは困難です。当時のタイルの色や風合い、特に色むらを再現するのがとても難しいのですよ。学生を連れてきたい場所ですね」とコメントする。築80年のビルを長く維持するのは容易ではない。ところで銀座にオフィスを構える理由はどこにあるのだろう。東海林さんは説明する。「僕が入居した頃は独立して事務所を持つとなると、代官山か恵比寿、あるいは神宮前のワンルームマンションが相場でした。それでいて家賃が20万円近く。ところが僕のオフィスは8畳で5万円。しかも珍しいビルということで、随分と人が遊びに来たものです」。東海林さんは隣の部屋を借り増すなどして、合計9年間奥野ビルに事務所を置いた。これがきっかけで銀座の魅力にはまり、その後も事務所は銀座を離れることが無い。銀座は個人の地主が貸しビル業を営んでいることが多く、家賃は地名から想像するほど高くないのも魅了だそう。



奥野ビル



それぞれの視点で探索する6名

銀座ライトナイト・ヴィジョン2020

永井荷風の小説の舞台となった路地

次に向かったのは、ティファニー銀座本店と英国屋銀座二丁目店の間にある幅1メートルほどの細い路地。永井荷風の小説、『つゆのあとさき』（1931年）の、舞台になったカフェがちょうどこの場所にあったとか。物語はヒロインの女給が、一人一人がやっと通れる細い路地を通り、赤いランプが灯るカフェに働きにやってくるという設定。このストーリーを意識してか、上からの赤い照明が地面に模様をつくっている。路地脇にあるワイン屋が設置したものだ。この路地は0.56ルクスと極めて暗い。そこを照らす凝ったライティングが、なんとも不思議な雰囲気をつくり出している。賑やかな銀座の大通り、しかもティファニーのすぐ横に、こんな場所が存在するとは。どうやら銀座は、大通りから少し裏に入ると、未知なる世界が広がっているようだ。

もちろん銀座の大通りは、眩しいばかりの光がきらめき、それぞれのビルには趣向を凝らしたライティングが施されている。こうした光の中にいると、幸せな高揚感があるものだ。そしてショーウィンドウの中には、有名ブランドご自慢の商品がライトアップされている。祖父と父親をテラーに持つ山田さんは、こんなことを口にした。「ウインドウショッピングという言葉がありますよね。あれはヨーロッパでは、飾られている服に窓に映る自分の姿を重ね合わせ、似合うかどうか確かめるんです。ウインドウによってショッピングが成り立つ」これにはウインドウの中と外の光の微妙な関係が重要だ。果たしていまの銀座でそんな楽しみ方が可能だろうか。銀座中央通りは一様に明るい。三越・和光のある銀座四丁目の交差点は260ルクスもあった。

四丁目交差点近くに存在する暗がり

逆に四丁目交差点からほど近いところに、なんとも薄暗い場所が存在する。1952年に完成した、三原橋地下街がそれだ。現存する日本で2番目に古い地下街で、かつてこのあたりにあった闇市を地下にまとめたらしい。ちなみにこの地下街と入口の上にあるビルを設計したのは土浦亀城である。80年代から趣味性の高い映画を上映していたシネパトスも2013年春に閉館し、いまや地下街唯一のテナントは新橋にあるような一杯飲屋。銀座四丁目の交差点から徒歩2分のところに、このような場所が存在するとは全くもって意外だ。ちなみに西側の出口付近の照度は3ルクスほど。狭い路地でもないのに、別世界のように暗かった。この三原橋地下街からほど近いところに三原小路がある。昭和にタイムスリップしたよう



銀座一丁目付近から銀座四丁目にかけてのブランドショップ街



三原橋地下街

な通りだ。そこに小さな祠、あづま稲荷神社がある。戦後間もない頃、この付近は火事が絶えなかったが、お稲荷さんを祀ってから火事はビタリと止まったとか。21世紀の大都市にも、こうした場所は不可欠のようだ。この三原小路は、あずま通りを超えると銀座コアの1階の建物内の通路につながっている。そして通路の途中には、1895年にこの地で創業し「あんみつ」を考案したことで知られる甘味処「若松」が。通路は途中でクランクし、銀座通りにつながっている。「おそらく昔の道をそのままに残し、上に建物を建てたのでしよう」と建築家の亀井さん。



三原小路

華やかな部分にも歴史が

続いて向かったのは、アバクロンビー&フィッチ。通称「アバクロ」。アメリカ発のカジュアル衣料店で、2009年末に銀座に出店したのが日本1号店だ。モデルのようなルックスの男性店員を配し、照明、音楽、香と、五感に訴えるマーケティングを行っている。「昔、銀座には呉服屋が随分とありました。彼らは香をたくなど感覚を使った演出でお客様をもてなしたものです。五感に訴えた場合、ひとつの感覚に集中するよりも他の感覚も交えたほうがつい買ってしまうことになる。その意味でアバクロは、伝統的な銀座の店に近いところがあります」と山田さん。ちなみにアバクロ内の音は80デシベルと、工業地帯や地下鉄内部ほどの音量がある。「渋谷だったら、あえて店の外まで音楽が聞こえるようにするのに、あの音量で店の外に音が聞こえてこない。銀



改装中の金春湯(2階)



キッコーマンテンプレート
「この卓上瓶ボトルが生まれたのは1961年（昭和36年）です。銀座の街の景色にこのテンプレートを当ててみると、なんだかその頃に買ったことを妄想してしまいますね。」（山田さん）



座は音楽が聞こえてこない街」とヲノさんは指摘する。さらに一行は西に向かい、新橋に近い銀座八丁目に。この付近は江戸時代の17世紀から能楽の金春家の屋敷があった地域で、「金春」という名前が使われた施設が多い。1863年創業の銭湯「金春湯」もそのひとつ。今もビルの中で営業を続けている（2014年3月3日までは耐震工事のため休業）。幕末から明治にかけてこの界限は金春芸者（のちの新橋芸者）で賑わった。そんな彼女たちが仕事前に利用したのが、この金春湯だ。それにしても、今でもこの地域に銭湯の需要があるとは。どのような人が利用するのか。銀座という街には、本当に表からでは分からない部分がある。

銀座ライトナイト・ヴィジョン2020

さて、新橋芸者で賑わった銀座八丁目エリア。今は高級クラブのネオン看板が並ぶ、世界で一人当たりのシャンパン消費量が最も高い地区でもある。そんな場所に建つのが、Water Towerだ（2002年竣工）。文字通り「水商売の塔」で、テナントに多くの飲食店が入っている。米倉涼子が演じて評判になったテレビドラマ『黒革の手帳』は、このWater Towerの3階に彼女の店「クラブ・カルネ」が入居している設定だ。建物は並木通りと西五番街の2つの通りに面する大きなもの。この2つの通りを1階の建物内通路が結び、通り抜け出来るようになっている。三原小路のように、ここも昔からの小路だろうか。通路脇の噴水はストロボの光で照らされ、流れ落ちる水が大きな球がゆっくり落ちてくるように見える演出がなされている。残念ながら、手がかりらしいものは何もない。

人々をひきつける裏路地の魅力
関東大震災と第二次大戦の空襲で、銀座は多くの部分を火事で失った。そんなこともあり、様々な時代に建てられた建築が入り混じっている。八丁目近辺もそうだ。夜になると看板に灯りが灯るので、ネオンがきらめく表通りだけでなく、建物と建物の間にいくつもの細い路地があるのが分かる。しかも行き来する人の数が少なくない。抜け道になっているようだ。足を踏み入れてみると、そこは昭和の面影が残る世界。昔ながらの飲食店が軒を並べている。銀座地区で、路地にある店で最も有名なのが、1928年に創業したバー「ルパン」だろう。この店で撮られた太宰治の写真はあまりにも有名だ。



だが、今回の参加者が興味を持ったのは、こうした名の通った店ではなく、人々の生活の息遣いを感じられる、昭和が残った場所だ。「まさかこんな所が銀座にあるとは思っていなかった。発見だ」と誰もが口にした。「パリには『パッサージュ』という言葉がありますが、銀座の路地を表す特別な言葉は存在しません。こうした路地は自然に生まれたもの。人工的につくれるものではありません。路地の両側の建物が残っているから、路地として成立するんですね。片側の建物が取り壊されると、



WATER TOWER



「ルパン」前の路地。銀座五丁目だと、これほどの道幅がある。

もう路地は存在しなくなってしまいます。普通であれば、ガスや水道は大きな道路の下を通しますが、路地だと民地の下を通さないとはいけません。隣近所が協力しないと成り立たない世界が、ここにはあるのでしょうか」と亀井さんは建築家ならではの視点で分析する。
東海林さんによると、今は七、八丁目のあたりしかこうした路地が残っていないが、2000年頃は事務所に近い一丁目や二丁目にも、随分と路地が残っていたそうだ。団塚さんの持ってきた1861年の江戸の古地図に、一行が歩いた路地の一部が記載されていた。木造建物しかなかった時代の路地が、鉄筋コンクリート造りの建物の時代になった現代でも残っているのは、奇跡に近い。
「こうやって改めて銀座の街歩きをしてみて、こうした路地を開拓してみたくなくなってきました



古地図を手に路地を確認する。

た。店に入って、昔はどうだったのか、一杯飲みながら歴史を聞いてみたい」と団塚さんが言えば、「裏路地は内臓的で艶めかしいですね」と、兼松さんも路地の魅力に賛同する。何故こうまで路地に惹かれるのだろう。細さか、暗さか、怪しさか。そんな路地をヲノさんは「計測してみると、路地は意外にうるさいんですよ。空調の室外機が置かれているから。でも気になりませんでしたよね。暗いからでしょう」とコメントする。ともあれ路地は、特別な魅力を持っているようだ。

街をつくるのは光
では、銀座の街を歩いて皆さんは路地以外にどのような感想を持ったのだろう。

江戸時代の古地図を手に歩いた団塚さんは、「見上げると、空は江戸時代と同じ漆黒の闇。そして、目を落とすと現代の象徴である銀座の街の灯。そのギャップに、タイムスリップ感を感じました。それにしても銀座は、ソフィスティケートされていますね。時間を越えた、いいものがさまざまな場所に残っています。それは他の街、たとえば新宿には存在しないものですね」と語る。

打診棒で街の素材を確かめながら歩いた兼松さんは「街らしさというのが、いくつかの素材で言い表せる場合があります。例えば大手町ならガラスとか。ところが銀座をひと言で表す素材が無いんです。様々な素材が混じっているからでしょう。つくろうと思って、こうした街ができる訳ではないですね。実はタイルばかり見ていましたが、随分と古いものが残っていて、見本市のようでした。気合が入ったものが多かったですね」とコメントする。

山田さんはデザインの視点から「明治以降の日本の文化は、舶来品で成長してきました。服装にしても、アメリカ流の大量生産のものがやってきましたが、イギリス流のテーラーマイドの紳士服文化が色濃く残っているのも銀座です。そうした異なるふたつの文化、手法を持ち合わせているのが銀座ではないでしょうか。また服や道具のデザインひとつで、人の姿勢や作法が変わります」と。

現在銀座のプロジェクトを手掛けており、先ごろ起工式に参加した亀井さんは、「そこには地元の旦那衆が招かれていました。新参者が仕事をする時、こうした昔からの方々のお世話にならないといけません。大企業と個人とが協調して仕事をする点で、スケールの対比が面白いですね。個人が尊重されているように思います」と話す。



銀座八丁目付近の裏路地。人がすれ違うのがやっとの幅しかない。

東海林さんも「僕が奥野ビルに入った頃、竣工当時から住んでいる80歳近くのお婆さまがいらっしゃいました。また40年近く住んでいる紳士もいらっちゃって。ある時演出で照明を点滅させていたら怒られたものです。古くからの住人への配慮が欠けていたんですね。こうした方々の存在は、銀座ならではの光」と回想する。

ヲノさんはちょっと発見をした。「音量を測って分かったのですが、銀座は60〜70デシベルと、予想よりうるさいんです（静かな住宅街で50デシベル）。しかも、明るい所も暗い場所も、それほど音量は変わりませんでした。ところが人間は、明るい所は賑やかに、暗い場所は静かに感じるんです。街をつくるのは、この光なんですね。」



ヲノさんによる音量測定



銀座晴海通りの街燈
このデザインを手がけたのは、山田さんが勤めるGKデザイングループ。80年後半のバブル前の設計で、それなりにお金のかかったもの。今でも自然と街に溶け込んでいるのは、標識なども含めた総合的なデザインだったからかもしれない。

銀座ライトナイト・ヴィジョン2020

照明デザイナー東海林さんの案内で周った銀座の街。誰もがこの街の奥深さに魅了されたものだ。ガス灯が最初に灯ってから140年たっても、この街が光によってつくられているのが興味深い。

「照明は、街や時代を映す鏡です。7年後のオリンピックの時、昔からの部分と、変わってしまう部分があるはず。一体どうなっているのでしょうか。ただ一つ間違いないことは、オリンピックで大勢の海外からの方がこの街を訪れることです。その時、こうした大正・昭和から続いてきた世界の魅力にも気づいてくださると嬉しいですね」と東海林さんは語る。

銀座は意外な側面のある本当に魅力のある街だ。機会があれば、この歴史ある街をゆっくりと歩いて頂きたい。きっとあなたならではの発見があることと思う。

(文責：ジョー スズキ)

写真：P.5右 (3点)、P.6下 (2点)、P.7 (3点) ジョー スズキ



ジョー スズキ Joe Suzuki
文筆家・写真家
国内外のメディアに寄稿する文筆家・写真家。特にインテリアの分野に強く、海外家具メーカー社長、デザイナーへのインタビューを得意とする。デザインプロデューサーとしての顔も持ち、2013年秋のデザインウィークの注目のイベントであったMAINの発起人でもある。



銀座周辺の夜景 (手前が八丁目、奥が一丁目、最も明るい場所が四丁目交差点)



山田晃三 Kozo Yamada
デザインディレクター
株式会社GKデザイン機構 代表取締役社長
愛知県立芸術大学卒業後、1979年GKインダストリアルデザイン研究所 (現GKデザイン機構) 入所。GK動態本部を経てマツダ株式会社との合併によるGKデザイン総研広島に転出。同代表取締役社長を経て2012年より現職。国内外11社からなるGKデザイングループを率いる。『道具論』をデザイン思想とするGKグループは今年創立60周年を迎える。日本インダストリアルデザイナー協会理事。日本グッドデザイン賞 (Gマーク) 審査委員。道具学会会員。著書に『クルマ社会のリデザイン』(鹿島出版会・共著) など。



亀井忠夫 Tadao Kamei
建築家
1977年早稲田大学理工学部卒業 / 1978年ペンシルベニア大学修士課程修了 / 1978-79年HOKニューヨーク勤務 / 1981年日建設計入社 / 現在、日建設計 取締役常務執行役員 設計部門統括および、日建スペースデザイン代表取締役 / 主なプロジェクト：さいたまスーパーアリーナ、パシフィックセンチュリープレイス丸の内、虎の門琴平タワー、クイーンズスクエア横浜、大連タワーなど。
主な受賞：Businessweek/Architectural Record Award、芦原義信賞奨励賞、グッドデザイン賞、日本建築学会作品選集、日本建築家協会優秀建築選、BCS賞



団塚栄喜 Eiki Danzuka
ランドスケープデザイナー
EATHSCAPE INC. 代表
1963年大分県佐伯市大入島生まれ。桑沢デザイン専門学校卒業後、環境美術研究所を経て、1999年アースケイプ設立。人と自然との関係性を創り出す仕掛けをデザインと捉え、体験の媒体となるデザインワークを行う。まちづくりやランドスケープデザインをその一翼に、それ以外のデザイン活動や、デザインを通した環境活動 MHCP (メディカルハーブマンカフェプロジェクト) などのプロジェクトを行う。



兼松学 Manabu Kanematsu
東京理科大学理工学部建築学科 准教授
博士(工学) (建築材料学・コンクリート工学)
1998年 東京大学大学院建築学専攻 修士課程修了。1999年 東京大学大学院 助手。2006年より現職。2011年米国カリフォルニア大学バークレー校客員研究員。建築物の耐久性やメンテナンスを主たる専門とする。
現在では、近代建築物(たとえば軍艦島や同潤会アパートメント)の素材研究、建築材料の環境側面の研究、建築素材のテクスチャの研究、中性子を利用した分析技術など、建築素材を視点に幅広い研究に取り組む。



ヲノサトル Satoru Wono
作曲家 / 音楽家
1987年日本現代音楽協会作曲新人賞を受賞し、作曲家としてデビュー。その後はポップスの分野でもミュージシャン、プロデューサーとして活動を展開し、ソロアルバムを発表。ユニット『明和電機』に「経理のヲノさん」として参加、またムード音楽バンド『ブラック・ヘルベッツ』やポップ・ユニット『XILICON』などでも活動。『甘い作曲講座』や『作曲上達 100 の裏ワザ』などの著書がある。現在、多摩美術大学美術学部准教授。最新CDは『舞踏組曲』。



東海林弘靖 Hiroyasu Shoji
照明デザイナー /
IALD 国際照明デザイナー協会プロフェッショナル会員
LIGHTDESIGN INC 代表
1958年、福島生まれ。工学院大学大学院建築学専攻修士課程修了。光と建築空間との関係に興味をもち、建築でザインから照明デザインへの道に入る。90年よりアラスカ、サハラ砂漠、ロシア、パプアニューギニアなどの自然界の光環境を調査。
2000年、LIGHTDESIGN INC. を設立。超高層建築のファサードから美術館、図書館、商業施設、飲食空間から医療空間における光環境まで幅広い光のデザインを行っている。

J Pタワー

J Pタワー
所在地：東京都千代田区
主要用途：オフィス、商業施設、郵便局
設 計：三菱地所設計
提携建築家：マーフィ/ヤーン
ランドスケープデザイン：プレイスメディア
竣 工：2012年5月

ランドスケープライティングデザイン：岩井達弥光景デザイン
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 東京TEC

旧東京中央郵便局舎保存部分である低層棟の屋上庭園は、周辺の高層建築のライトアップを見渡すことのできる場所であるとともに、復原され新たな光を纏った東京駅舎を間近で眺められる東京の新たな景勝地ともいえる場所です。クリアーにかつ安全に夜景を楽しむように回遊動線照明は手摺と一体化した足元照明とし、それが「光の道」となって訪れる人々の印象に残ることを意図しています。手摺には指向性配光の防水LEDラインを使用し、通路中央まで光が届くことや地上から光源が見えないことなどを検証しながら、建築デザインと十分な調整を行いました。



外観写真（上）：新建築社



屋上庭園
特注手摺照明
SuperSiliconelight U-844 (2列)
光源：LED約6W/m

屋上庭園



屋上庭園



1階テラス

1階テラス
特注ボール灯 X-series
光源：LED22W×3灯、4灯
地中埋設照明 X-series
光源：LED22W×1灯



旧局舎の煙突（復原）のライトアップ



旧局舎の煙突（復原）のライトアップ
スポットライト X-series
光源：LED22W×1灯



地上部歩行者ネットワーク



地上部歩行者ネットワーク

ダイビル本館

ダイビル本館
所在地：大阪府大阪市
主要用途：オフィス
設 計：株式会社 日建設計
竣 工：2013年2月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 大阪PDC
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 大阪TEC

大阪を代表するビジネス街である中之島に位置するダイビル本館は、1925年(大正14年)竣工の「旧ダイビル本館」を復元し、往年の名建築を次代に継承する建物として生まれ変わりました。低層部の特徴的な外観をつくる煉瓦と石彫刻は、旧ビル解体時に取り外したものを再利用するだけでなく、内部に至っても旧ビルエントランスホールデザインを取り込み、イメージの再現を図ることで歴史溢れる空間となっています。光の在り方にも創建当時の写真に基づき、意匠器具として存在する器具には当時のデザインディテールや塗装色にまでもこだわり、可能な限り忠実な復元となることに徹底的にこだわりを持ちながら、空間への明るさや色合いのバランスをとり、全ての器具内の光源をLED化し環境にも配慮した計画となっています。彫刻的なファサードは再現された光によって重厚で深みのある表情と、新たな光を要所に付随させ立体的な表情を演出することで、繊細さと存在感を併せ持った新しい夜の景観をつくりだしています。



エントランス外観



外観

エントランス外部
特注復刻照明 ブラケット
光源：LED 10.6W×2灯
特注復刻照明 ウェストン
光源：LED 6.4W×1灯
特注復刻照明 ペンダント
光源：LED 10.6W×1灯
地中埋設照明 BEGA D4549
光源：CMH-TC 20W×1灯



ロビー吹抜



エントランスロビー吹抜



エントランス内部

エントランスロビー吹抜
特注復刻照明 ペンダント
光源 :LED 10.6W×1灯
特注復刻照明 ペンダント
光源 :LED 5.4W×2灯
特注復刻照明 シーリングライト
光源 :LED 12V7.2W×12灯+
LED 12V5.8W×12灯

外壁
ライトアップ照明
カラーキネティクス
eW GZP-4-27-N
光源 :LED 58W×1灯
YT40409-WP
光源 :LED 7.4W×1灯



外構



外構

ワテラス

ワテラス
所在地：東京都千代田区
主要用途：複合施設
設 計：株式会社 佐藤総合計画
竣 工：2013年2月

照明計画：岩井達弥光景デザイン
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 東京TEC

ワテラスは、「和」をテーマにした、オフィス、商業、住宅が一体になった小さな町ともいえる施設です。和の光といえば和紙を使った行灯の光が定番ですが、ここでは照明器具が主張することをできるだけ避け、光で浮かびあがる光景を大切に考えました。都会の夜は建物や街灯の光で一様なる明るさがあります。その中で夜景を際立たせるためには、一般的な街灯のような拡散光ではなく、見せたい部分を効果的に演出するスポットライトの光が必要と考えました。地面に設置したスポットライト以外に、シンプルなボールの先端に取り付けたスポットライトの上からの光によって、抑揚のある光空間を作り出しています。



外観

外構
特注ボール灯 X-series
光源：LED 22Wタイプ×3灯
フラッドライト X-series T-980B+Z1158B
光源：LED 22Wタイプ×1灯
水中照明
T1079 電球色タイプ
光源：LED 13W×1灯



水中照明



外構
特注ボール灯 X-series
光源：LED 22Wタイプ×3灯

フラッドライト X-series T-980B+Z1158B
光源：LED 22Wタイプ×1灯

特注フットライト
光源：E26 LED電球7W×1灯



特注フットライト



外構
特注ボール灯 X-series
光源：LED 22Wタイプ×3灯

特注ボール灯 X-series
光源：LED 22Wタイプ×3灯





阿倍野再開発事業の一貫として、2013年4月に全面開通しました。歩道橋本体の形状は、「あべの」のローマ字表記である「a」をイメージしたデザインで、駅前交差点における新しい行動の起点になります。変断面トラス構造による斬新な形態の幕屋根は、昼は明るく、開放的にぎわいのある歩行空間となり、夜はライトアップ照明によりシンボリックな景観をつくれます。



阿倍野歩道橋
所在地：大阪府大阪市
主要用途：歩道橋
設 計：中央復建コンサルタンツ株式会社・株式会社昭和設計
竣 工：2013年4月

照明計画：アカリ・アンド・デザイン
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 大阪TEC

歩道橋通路
特注ペンダント
光源：FHT 42W×8灯

プラダ 銀座店 / プラダ 大阪心斎橋店 / プラダ 名古屋店

イタリアを代表する高級ブランド「PRADA」の国内主要都市の旗艦店として、名古屋（市内）・大阪（心斎橋）・東京（銀座）に相次いで竣工し、そのファサード照明演出を行った。傾斜方向の異なるシルバーとゴールドの縦ルーバーが交互に配置されるため、ファサード全面に大きな「うねり（凹凸）」ができるだけでなく、2種のルーバーの色がグラデーションで表現されているように見える特徴的なしつらえとなっています。3店舗ともに基本的には同様のルーバーデザインとなっており、そのルーバーの隙間から見える内側の面を発光させています。名古屋店においては、各層の発光面中央部に特殊な反射板を設けることで、フルカラーLEDを上下からのみの照射で均一な面発光を作り出し、カラー演出を行っています。また、心斎橋店と銀座店は、単色のLEDを全面に配置することで、より輝度が高くなるよう面発光させ、ルーバーの影とコントラストの効いた昼間とは異なった表情を演出しています。



プラダ 銀座店

プラダ 銀座店
所在地：東京都中央区
主要用途：ショップ
設 計：ロベルト・パチヨッキ
外装施工：バルマスティーリザ・ジャパン株式会社
竣 工：2013年10月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 東京PDC

プラダ 大阪心斎橋店
所在地：大阪府大阪市
主要用途：ショップ
設 計：ロベルト・パチヨッキ
外装施工：バルマスティーリザ・ジャパン株式会社
竣 工：2013年7月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 東京PDC

プラダ 名古屋店
所在地：愛知県名古屋市
主要用途：ショップ
設 計：ロベルト・パチヨッキ
外装施工：バルマスティーリザ・ジャパン株式会社
竣 工：2010年9月

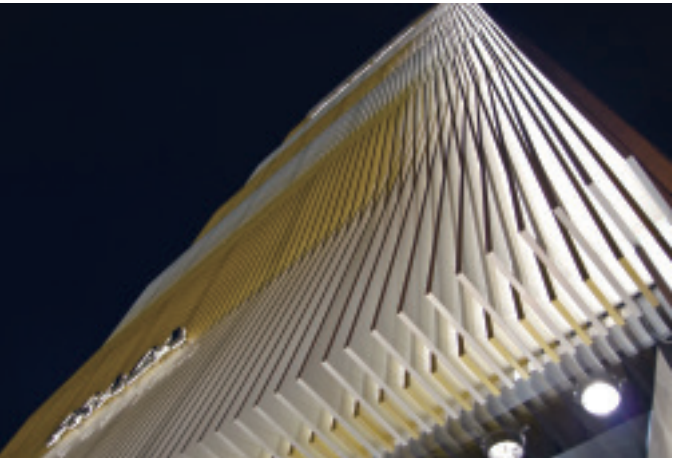
照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 東京PDC



プラダ 心斎橋店



プラダ 名古屋店



プラダ 銀座店
ファサード照明
光源：□パネル型 LED12W / 1ユニットあたり

プラダ 大阪心斎橋店
ファサード照明
光源：LED 100V 1W / 1ユニットあたり

プラダ 名古屋店
ファサード照明
光源：フルカラーLED (RGB) 52.5W / 1ユニットあたり



外構



外構 ボール灯LP NEST



外構 ボラードX-series

南海なんば第一ビル
所在地：大阪府大阪市
主要用途：オフィス
設 計：株式会社 大林組・南海辰村建設
竣 工：2013年1月

Zepp Namba OSAKA
主要用途：文化施設
設 計：株式会社 大林組
竣 工：2012年3月

照明計画協力：AZU設計工房
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 大阪TEC



1F エントランス



4F 通路及び打合せコーナー

外構
特注樹木用アップパー・ダウンライト
(サークルライト)
光源：LED 7W×8灯
ボール灯 LOUIS POULSEN LP NEST
光源：CDM-T 70W×1灯
ボラード X-series H-182S改
光源：LED 22W×1灯
ボラード X-series H-172S改
光源：LED 22W×1灯
特注LEDライン演出照明
光源：LED 8.6W×1灯

1Fエントランス
ペンダント LOUIS POULSEN Doo-Wop
光源：LED 11W×1灯

4F通路及び打合せコーナー
半埋込器具 LOUIS POULSEN D3014改
光源：LED 0.9W×20灯



舞鶴公園
所在地：福岡県福岡市
主要用途：公園
設 計：株式会社 ZEN環境設計
竣 工：2013年2月

外構
特注ポール灯 BEGA
H4555B+T4047B
光源：LED 40W×1灯+LED 26W×1灯

器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 大阪TEC

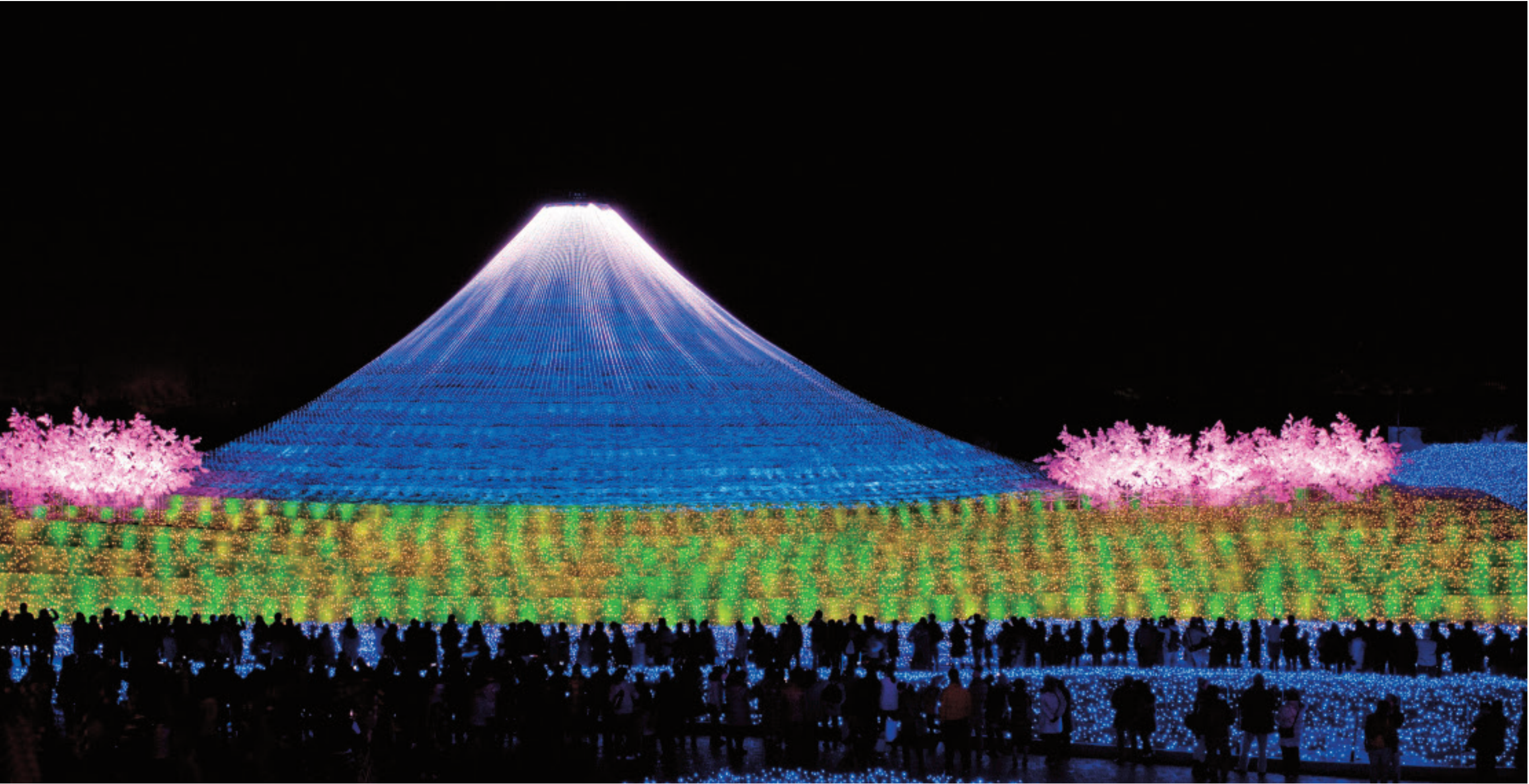


大橋駅西口再開発事業
所在地：福岡県福岡市
主要用途：街路
施 工：上内電気株式会社
竣 工：2013年3月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 福岡PDC

外構
ポール灯 LOUIS PUISEN
H43061G+U3131G
光源：LED 49W

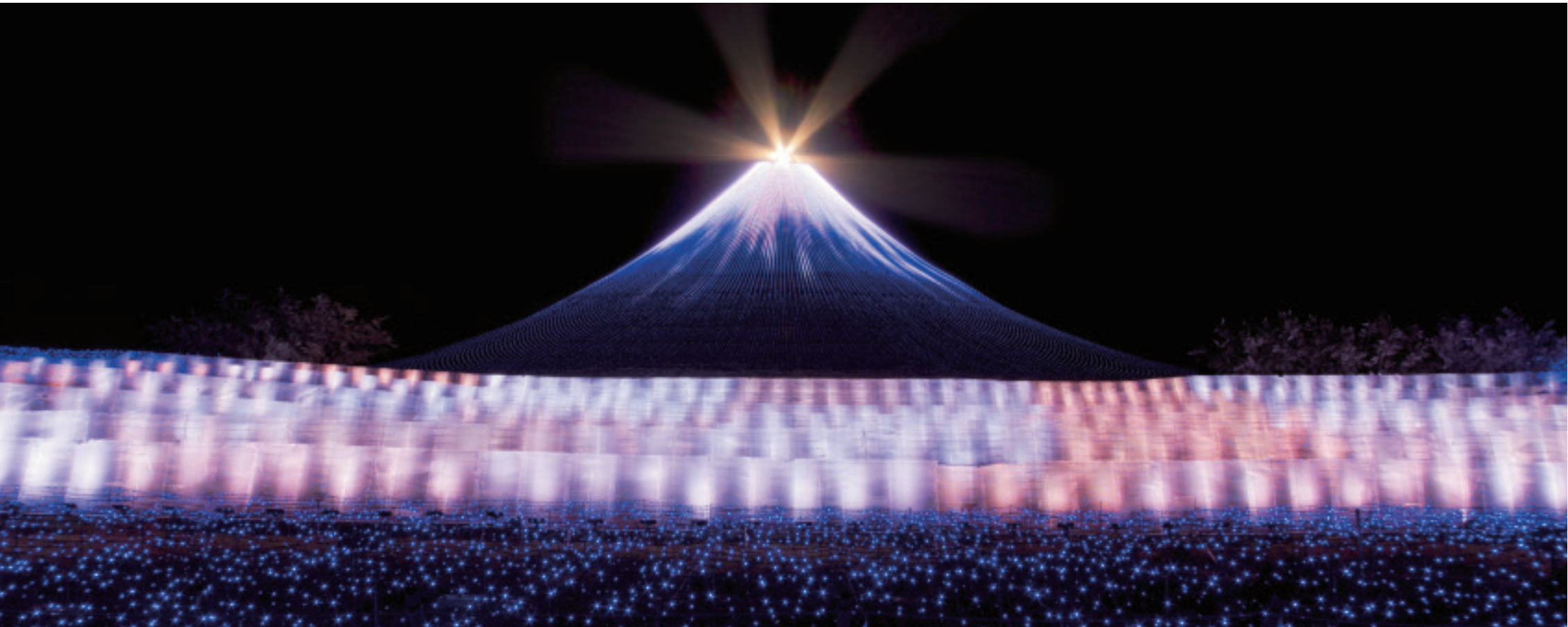




桜（春）

なばなの里 ウィンターイルミネーション「冬華の競演」2013
テーマ「祝・世界遺産 富士」
所在地：三重県桑名市
主要用途：屋外テーマパーク
イベント期間：2013年10月25日～2014年3月31日

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 名古屋PDC



日の出（ダイヤモンド富士）

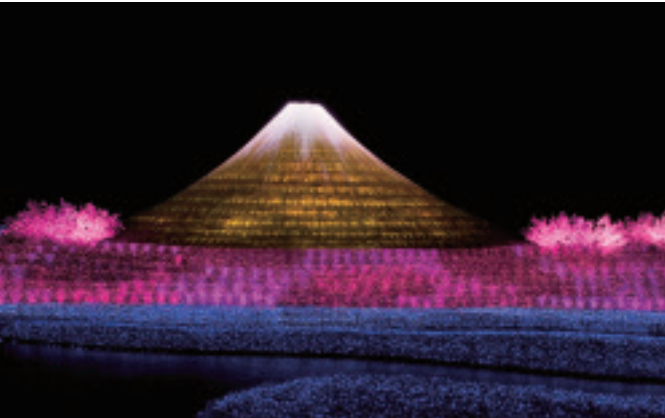
カラーキネティクス iColorFlex MX
光源：高輝度カラーLED（3in1）DC7.5V25W

カラーキネティクス ColorBlast 12
光源：高輝度カラーLED DC24V50W

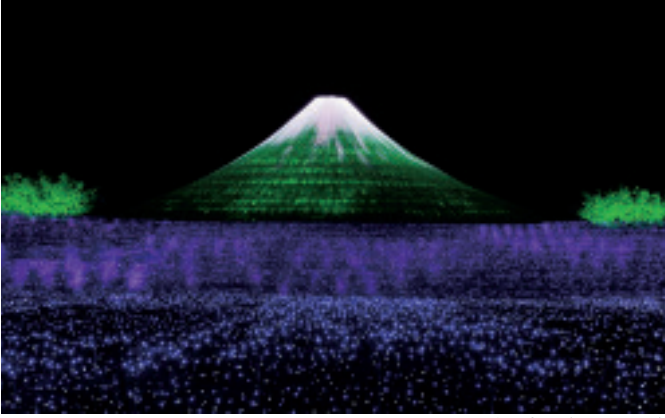
カラーキネティクス iW Burst Powercore
光源：高輝度白色LED（色温度制御）AC100-240V30W

カラーキネティクス Light System Manager
＊ColorBlast 12及び一般LEDの総合制御装置

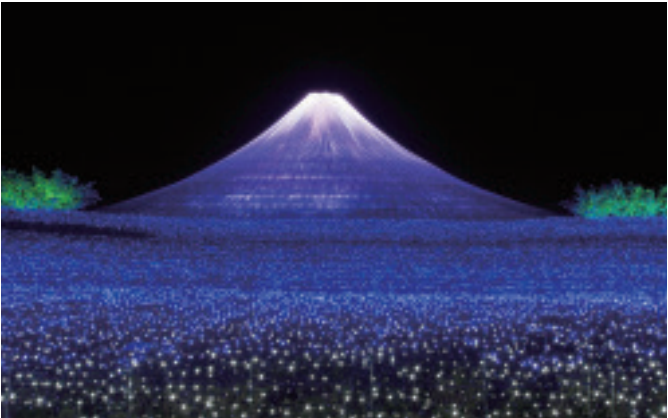
カラーキネティクス Video System Manager Pro
＊iColorFlex MXの総合制御装置



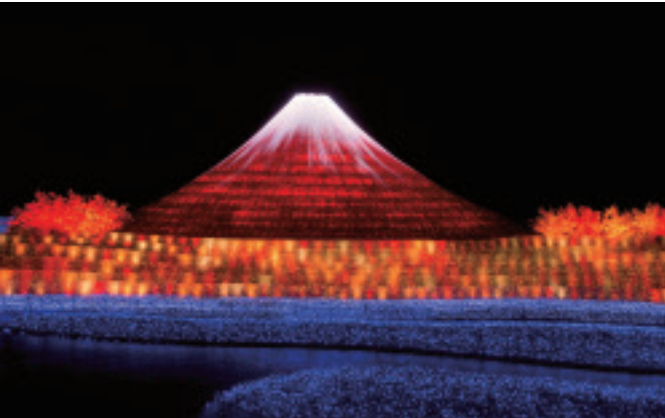
芝桜（黄富士）



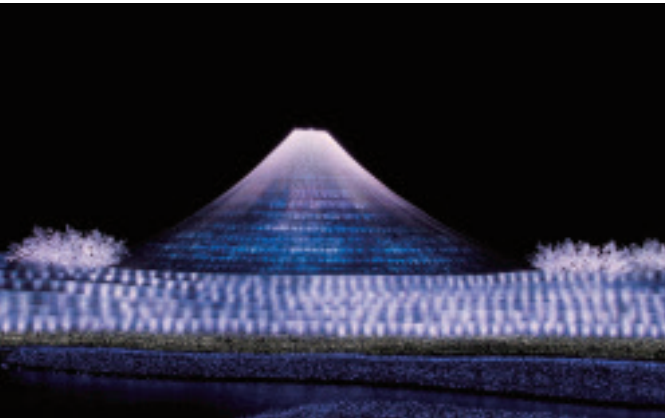
新緑の初夏（ラベンダー）



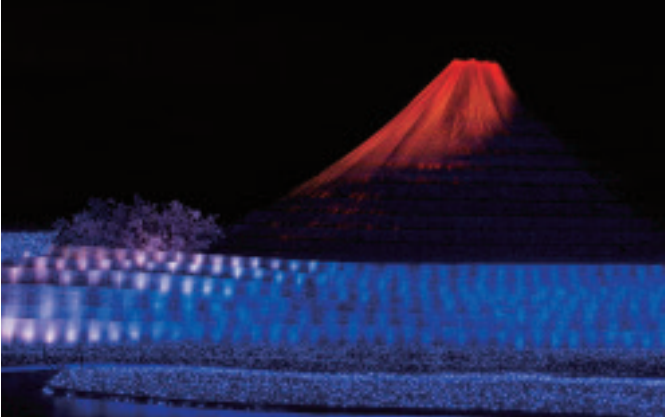
富士と海（三保の松原）



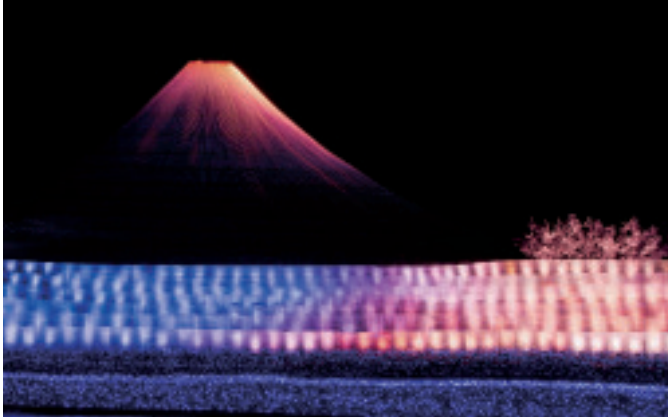
紅葉（紅葉富士）



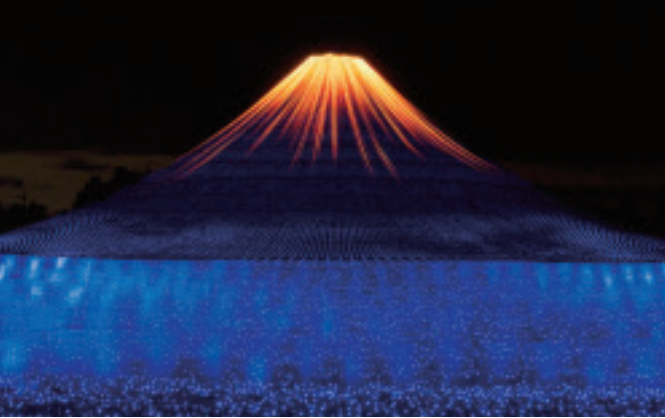
雪化粧（白富士）



曙（曙富士）



夕日（夕景富士）



月光（黄金富士）



泉と滝の広場のカラーライティング

富岩運河 環水公園は、富山駅の北側に位置し、日本海まで続く全長5.1kmの運河を活かした親水文化公園です。この公園の特徴は、両岸を結ぶ「天門橋」と川の最上流部をイメージする滝と、湧水をイメージする水盤で構成されている「泉と滝の広場」です。富山の四季をカラーライティングの光で表現したプログラムは7種、それぞれ5分間のシーンが4つ用意してあります。5分間は滝の水が流れる時間で、滝が水を溜める15分間は通常照明（電球色）で行なわれています。また橋も同じプログラムでカラーライティングが行なわれています。（ライトアップは日没後～22時まで毎日開催。）

富山県 富岩運河 環水公園
所在地：富山県富山市
主要用途：公園
設 計：祥設計 株式会社
竣 工：2013年1月

器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 名古屋TEC

Photo: Nacasa & Partners



天門橋のカラーライティング



泉と滝の広場のカラーライティング



瀬戸内海の島々を舞台にした瀬戸内国際芸術祭の参加アート「舟底の記憶」のライトアッププロジェクト。実際のスクリューと錨をベースにした重厚感ある作品を印象的に見せるため、ハイパワースポットライトで光と影のコントラストを強調しました。スクリューの作品ではボールを設置し、上からの光で全体ボリュームを表現しています。作品の魅力を最大限惹きだすため、光の照射角度と設置位置は現場実験により入念に検討されました。



舟底の記憶（スクリュー）

瀬戸内国際芸術祭2013 小沢敦志「舟底の記憶」
所在地：岡山県玉野市
主要用途：公園
作 家：小沢敦志
竣 工：2013年7月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 大阪PDC
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 大阪TEC

舟底の記憶（スクリュー）
特注ボール灯+フラッドライト BEGA T4022S+U4868S（特注）
光源：CDM-R 70W×1灯
フラッドライト BEGA T4010S
光源：CDM-R 35W×1灯

舟底の記憶（イカリ）
フラッドライト BEGA T4010B
光源：CDM-R 35W×1灯



舟底の記憶（イカリ）



舟底の記憶（スクリュー）



市原湖畔美術館は1995年に建てられた展示施設をリノベーションした美術館です。古いものと新しいもの、アート作品や活動、湖や緑の豊かな周辺環境など、さまざまなものを一体となって体験できます。既存建物の仕上材を全て剥がしてコンクリートの構造体だけを残し、そこにアートウォールと名付けたスチール折板の壁を縫うように挿入して、展示室やラウンジ、ホールなどをつくりだしています。もともとあった回遊性の高いユニークな骨格を生かし、建物内外を連続的に巡りながら、照明を配置しています。外壁はRGBのLED照明でライトアップされており、あらかじめ設定したシーンが時間軸で変化し、夜間は幻想的で美しい雰囲気醸し出します。



外観

市原湖畔美術館
所在地：千葉県市原市
主要用途：美術館
設 計：有設計室
竣 工：2013年5月

照明コンサルティング：シリウスライティングオフィス



外構
ボラード X-series H-242S
光源：LED 22Wタイプ×1灯

外壁
LED RGB演出
TRAXON Wall Washer 18



展示室3



展示室1



常設展示室

展示室1・2・3、常設展示室、多目的ホール
スポットライト X-series T106BW
スポットライト X-series T107BW
スポットライト X-series T109AW
光源：LED 22Wタイプ×1灯
オプション：Z1185W ウォールウォッシュアード
Z1155W オプション用フード
Z1154 ミストレンズ



情報ラウンジ



他目的ホール

アーツ前橋
所在地：群馬県前橋市
主要用途：美術館
設 計：水谷俊博建築設計事務所
竣 工：2012年10月

照明計画：岩井達弥光景デザイン

古いファッションテナントビルを公共の美術施設に改装した、話題のプロジェクトです。展示空間としての天井高を確保するために、設備が露わになったインテリアデザインとなっています。全般照明は天井への間接照明で確保し、個別の展示物やイベントに必要な光はスポットライトでフレキシブルに対応できるようにしました。スポットライトはシンプルな筒形のデザインに高演色LEDを採用し、個別と全体の調光の切り替えやフィルター装着、先端部の交換によってウォールウォッシャーへの変更などが可能な、高機能スポットとなっています。



ギャラリー1



ギャラリー2



アーカイヴ・総合案内

展示室
特注スポットライト (個別・全体調光)
X-series
光源 : LED 22W×1 灯
特注ウォールウォッシャースポットライト (個別・全体調光)
X-series
光源 : LED 22W×1 灯

ホワイエ
特注ダウンライト X-series
光源 : LED 22W×1 灯



ギャラリー6



ギャラリー4



ホワイエ



ブロムナード



ショップ

アーカイヴ・総合案内・ショップ
特注スポットライト (個別・全体調光)
X-series
光源 : LED 22W×1 灯

ブロムナード
特注ダウンライト X-series
光源 : LED 22W×1 灯

ガーデンテラス東山

ガーデンテラス東山
所在地：愛知県名古屋市
主要用途：商業施設
設 計：有限会社デザインクラブEMW
竣 工：2013年9月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 名古屋PDC
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 名古屋TEC

空間テーマは、緑の大自然の中にある幾何学的な白い建築のアピール。東山植物園という広大な大自然の緑の中に計画されたこのレストランウェディング施設では、テーマ形状に則ったCube・Square・Lineという直線的なコントラストが絶対的な存在感を表現しています。そして自然の潜在的力を借景として空間に取り込んでいくような構造となっています。また、照明計画においては、インテリアから浮かび上がるようにエクステリアへアピールするように構成されています。この施設は、まさに大自然と現代建築の融合（フュージング）といえます。



外観



メインバンケット「リュージュン」

メインバンケット「リュージュン」
ダウンライト X-seies J-537W
光源：LED 38W×1灯
特注スポットライト
光源：LED 4.8W×1灯

ラウンジ「ストリア」
ペンダント BAUMN P2833B
光源：ミニクリプトンランプ 60W×6灯



ラウンジ「ストリア」



チャペル「アーク」外観

チャペル「アーク」
ダウンライト X-series J-537W
光源：LED 38W×1灯
ダウンライト X-series J-412N
光源：LED 22W×1灯

外構
地中埋設照明 J-585
光源：LED 25W×1灯
庭園灯 X-series H-222B
光源：LED 23W×1灯



チャペル内部



チャペル通路



通路

通路
特注フットライト
光源：LED 2W×2灯



エントランス

エントランスホール
特注シャンデリア
光源：LED 1.8W×72灯
全長 6500mm



エントランス 特注シャンデリア

ambio（ヒルトン東京ベイ）

2013年9月上旬、ホテル地下1階の大宴会場をリノベーションし、「ambio（アンビオ）」としてオープンしました。ambioは、英語のAmbience(雰囲気)、Ambition(大志)からなる造語で、コンセプトは「光の庭」。温かみのある自然の光をモチーフにデザインした、オフホワイトが基調の宴会場です。会場の天井には、「水面の波紋」をイメージした円形のデザインのくぼみをいくつもつくり、そこに設置された間接照明やダウンライトが生み出すやわらかい光が会場全体を包み込み、落ち着きのあるやさしい空間を創り出します。ミーティングルームとしても対応できるよう、机上面の明るさも配慮されています。

ambio（ヒルトン東京ベイ）
所在地：千葉県浦安市
主要用途：ホテル
設 計：橋本夕紀夫デザインスタジオ
竣 工：2013年9月

照明計画：シリウスライティングオフィス
音響・調光設備計画：ホリテック



会場内観（レイアウトの一例）

宴会場
ダウンライト X-series X003BN、X005BN、X104BN
光源：LED 22W×1灯
位相制御調光電源



会場内観（レイアウトの一例）



会場内観（レイアウトの一例）



会場内観（レイアウトの一例）

人が向きあうことで生まれる豊かな発想や信頼感をオフィス空間の中で創出していきたい。そんな願いを込めたライブオフィスは、そこに集まる人と人の関係＝コミュニケーションの原点は face to face であると考え、さまざまな向き合う場を構築。距離感、視線、姿勢が異なるさまざまな向き合う場を、オープンなオフィス空間にちりばめ、豊かなコミュニケーションを生む仕掛けとなっています。プレゼンテーションルームとホールにはLEDラインモジュールを施し、光色と照度の調整機能にてさまざまなシーンや用途に対応しています。お客様と向き合う場は、新しいオフィスやアイデアへの入り口=Gate となるよう、コントラストのある空間構成になっています。

富士ビジネス株式会社
所在地：東京都中央区
主要用途：オフィス
設 計：富士ビジネス株式会社
竣 工：2013年10月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 東京PDC



プレゼンテーションルーム

プレゼンテーションルーム
ユニバーサルダウンライト X-series J104BN
光源：LED 22Wタイプ×1灯
LED間接照明
L-system 光色リンク調光タイプ L701VS
光源：LED 42W

LEDライン照明
L-system 光色リンク調光タイプ L701VS
光源：LED 42W

レセプション
ペンダント
LOUIS POULSEN PH ARTICHOKE P3006W
光源：普通ランプクリア 200W×1灯
ユニバーサルダウンライト X-series J104BW特注仕様
光源：LED 22Wタイプ×1灯
ウォールウッシャーダウンライト X-series J006BN
光源：LED 22Wタイプ×1灯

デッキ
スポットライト X-series T100BN
光源：LED 22Wタイプ×1灯
ブラケット
LOUIS POULSEN B3107W
光源：電球形ハロゲンランプクリア 200W×1灯



レセプション



ホール



スタジオ



デッキ



外観

施設の老朽化と薬学教育制度の改正に伴い、薬学の教育環境の整備と先端研究施設の充実を目的としたキャンパス全面建替の2期工事です。都市の中にありながらも薬草園を囲む山崎川沿の緑豊かな「自然」と「薬学」、「人間」のかかわりを見つめ直すに相応しい条件を活かしつつ、キャンパス広場や主軸となるキャンパスモールを中心に各施設を配置し、コミュニケーションを促進する空間づくりとしています。照明計画は1期工事を踏襲しながら建築の特長を最大限に生かすべくシンプルでシャープな仕上がりとなりました。

名古屋市立大学薬学部 講義・図書館棟
所在地：愛知県名古屋市
主要用途：大学
設 計：株式会社 久米設計 名古屋支社
竣 工：2013年7月

照明計画：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 名古屋PDC
器具設計：YAMAGIWAプランニングデザインスタジオ 名古屋TEC

キャノピー
地中埋設照明 MOGULLA D-983
光源：CDM-T 70W×1灯
地中埋設照明 X-series J-586
光源：LED 23W×1灯

エントランス吹抜
ウォールウォッシャーダウンライト X-series J-545W
光源：LED 42W×1灯
壁面間接照明 YT4023（ナロー配光）
光源：LED 28W×1灯



外観



エントランス吹抜



キャンパスモール



キャンパスモール

キャンパスモール
特注天井埋込照明（1期工事分）
光源：CDM-T 150W×1灯
特注天井埋込照明（2期工事分）
光源：LED 34.9W×10灯
特注手摺照明
光源：FHF 54W×1灯
特注光壁照明
光源：FHF 54W×1灯

プラウド船橋Ⅲ街区/V街区
所在地：千葉県船橋市
主要用途：マンション
施主：野村不動産株式会社 / 三菱商事株式会社
監修：南條設計室株式会社
竣工：2013年10月

首都圏最大級の新船橋駅前の大型再開発プロジェクトのⅡ期目の工事（Ⅲ街区とV街区）が竣工いたしました。くみらSATO>と呼ばれるこのプロジェクトは、船橋総合病院、大型商業施設、緑あふれる大型公園、子育て支援施設などを含めた計画で、「未来のふるさと」がテーマになっています。南條設計室のデザイン監修のもと、共用部分の家具を中心としたインテリアのコーディネートを行いました。Ⅰ期目のⅠ街区とⅡ街区のデザインとの全体の統一感を持たせながら、各棟にオリジナル性をもったデザインイメージコンセプトになっており、それにもとづいた家具のセレクトになっています。Ⅲ街区は「育み（はぐみ）」で明るい木質やファブリックなど質感のある素材を展開し、優しさを表し、時をかさねて増す味わいを期待しております。V街区は「癒し（いやし）」で、シックな木質系などをした温かみのある素材を選び、落ち着きやゆとりを、表現しています。グレードの高い、個性ある家具を用いて、空間に、さらに豊かさを加えました。



Ⅲ街区 エントランスロビー

Ⅲ街区 エントランスロビー
チェア MOROSO
SILVERLAKE CHAIR

Ⅲ街区 キッチンスペース
チェア PIIROINEN
AND ARM CHAIR
マリメッコ柄

Ⅲ街区 キッズアンドママズラウンジ
チェア MOROSO
RIPPLE CHAIR
オットマン MOROSO
FJORD
子供用テーブル、チェア ARTEK

V街区 キッチンスペース
チェア PIIROINEN
AND ARM CHAIR
マリメッコ柄
テラス
チェア DRIADE
CAPE WEST
テーブル DRIADE
KISSIKISSI TABLE



Ⅲ街区 キッチンスペース



Ⅲ街区 キッズアンドママズラウンジ



V街区 キッチンスペース



V街区 エントランスホール

V街区 エントランスホール
特注ベンチ
ファブリック：イノベシア
オークダークブラウン色塗装仕上げ

YAMAGIWAの名古屋ショールーム「yamgiwa nagoya」が2013年9月28（土）グランドオープン

yamagiwa nagoyaは、「The Lighting SCENE,YAMAGIWA」をコンセプトとして、YAMAGIWAのオリジナル照明を中心にイタリアやドイツをはじめとした世界の一流ブランドの上質な照明器具や家具を展示しています。YAMAGIWAでは、まぶしさをおさえ光の質にこだわったえりすぐりのLED光源の照明器具と照明手法で、お客さまが理想とする空間のトータルコーディネートを専門スタッフをご提案いたします。

yamagiwa nagoyaのもうひとつの特徴は、変化に富んだ内装にあります。ショールームの1階と2階をつなぐように流れる滝は、水中照明により、さまざまな表情を見せてくれます。そして、館内にはジュエルボックスと呼ばれるケースに展示された照明器具の光が空間にリズムを与えています。今回のショールームデザインは、照明器具の美しいフォルムを最大限引き出すためのエリア（灯体の直接陳列）と、その光自体の柔らかない美しさを演出するエリア（間接照明の表現）により創り出されています。ルーバーの活用で吊元を美しく見せるなど、照明器具の設置ヒントもちりばめられています。



1F Brand Lighting Gallery



1F Brand Lighting Gallery



2F Lighting & Interior



2F Lighting & Interior



yamagiwa nagoya
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目23-9 MARUWA 名駅ビル
TEL 052-588-8360（代表）
定休日：火曜日、水曜日
営業時間：11：00～18：00

※ショールームには専用駐車場はございませんので、お車でお越しの際は近隣のパーキングをご利用ください。



3F Lighting Labo



3F Live Office

株式会社 YAMAGIWA
〒105-0014
東京都港区芝3丁目16番13号
MARUWAビル
TEL.03-6741-2300(代表)
www.yamagiwa.co.jp

最新の弊社の照明・インテリア施工事例をご紹介します。また、弊社ホームページにも掲載を予定しています。
当冊子の写真の無断転載を禁じます。
発行日：2013.12.25



yamagiwa